

腸癰湯を用いた治療によって慢性前立腺炎が改善した一例
A Case Report of chronic prostatitis successfully treated with choyoto modified formula

藤田昌弘*^{1,2} 西本隆*²

*¹ 阪神漢方研究所附属クリニック *² 医療法人社団 岐黄会 西本クリニック

Masahiro Fujita*^{1,2} Takashi Nishimoto*²

*¹Hanshin Kampo Clinic *²Nishimoto Clinic

【 緒言 】

慢性前立腺炎は、西洋薬治療、漢方治療の両者において治療困難症例をしばしば経験する。今回、腸癰湯を用いた治療によって難治性の慢性前立腺炎が改善した症例を報告する。

【 症例 】

40 歳代男性。X-8 年前から慢性非細菌性前立腺炎の診断を受け、西洋薬治療を受けるも改善は認めなかった。X-7 年から X-2 年まで、牛車腎気丸、桂枝茯苓丸、清心蓮子飲、茵陳五苓散、竜胆瀉肝湯の各々エキス製剤について当院での漢方薬服用歴がある。一貫堂の竜胆瀉肝湯に関しては排尿時不快感への部分的効果を認めるもその他の方剤は効果不十分であり、通院が途切れていた。X 年 11 月に排尿時不快感及び残尿感、夜間頻尿が悪化し、再来院された。

【 治療・経過 】

舌候は、舌質が暗紫で少し歯根があり、苔はやや厚く、白と一部黄であった。脈候は、滑で有力、腹候は、腹力 5/5 で胸脇苦満と臍下圧痛があった。その他の所見として、体格はよく暑がりであった。八綱弁証は、陽証・裏証・実証・熱証とし、気血津液弁証は、気滯及び血瘀、湿とした。臟腑は、肝が主に影響を受けていると診断した。疎肝理気及び清利湿熱・涼血を治法の柱とし、大柴胡湯去大黄エキス細粒 9g 及び腸癰湯エキス細粒 6g による治療を開始した。3 週後に排尿時不快感、残尿感の若干の改善を認めたが、清利湿熱を強める目的で一貫堂の竜胆瀉肝湯 9g、猪苓湯 4g に変薬した。3 週後には更に部分的な改善があるも、安定性に欠けるため、猪苓湯を腸癰湯 6g に変薬した。3 週後には排尿に関する不快症状は落ち着いていた。以降は大柴胡湯去大黄 6g、腸癰湯 4g を治療の中心とし、現在 22 週以上経過しているが症状は安定している。

【 考察 】

本症例の清利湿熱・涼血治療において温病学に注目した。営分証の清熱涼血に牡丹皮・桃仁が適していることや、温病条辨での清利湿熱に薏苡仁が頻用されることを考慮し腸癰湯を選択した。大柴胡湯・竜胆瀉肝湯と共に相乗効果を認めたと考えている。

キーワード：慢性前立腺炎、温病学、腸癰湯、大柴胡湯、竜胆瀉肝湯